

第3学年国語科学習指導案

平成 26 年 9 月 22 日(月) 第 5 限
 3 年 5 組(男子 10 名 女子 8 名)
 於 3 年 5 組教室

1 単元名 言葉 2

教材名 敬語 <使用教材：全教材 文法教室>

2 単元の目標

・敬語の使い分けについて理解し、自分の言語生活に生かそうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

・場面や相手に応じて、敬語を適切に使うことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (ア)】

3 指導について

○生徒について

少人数授業ということもあり積極的に発言する生徒が多く、授業中に与えた課題などに対しても意欲的に取り組む。また、事前に対象生徒(18人)に敬語に関するアンケートを行った。以下がその結果である。

【質問 1】あなたは正しく敬語を使うことができますか。

はい	いいえ	自信がない
6 人 (33%)	1 人 (6%)	11 人 (61%)

【質問 2】あなたは誰に対して敬語を使うことが多いですか。思い浮かぶ人を教えてください。(複数回答可)

先生 (14 人)	両親 (1 人)	先輩 (13 人)	親族以外の大人 (1 人)	大人 (3 人)
目上の人 (8 人)	他人 (初対面の人) (6 人)	客 (3 人)	年上 (2 人)	

【質問 3】あなたは敬語の使い方を誰に教わりましたか。当てはまる人を選んでください。(複数回答可)

先生 (9 人)	家族 (6 人)	先輩 (4 人)	その他 (TV) (1 人)
自然と身に付いていた (12 人)	小学校の授業 (3 人)		

【質問 4】「尊敬語・謙譲語・丁寧語」という言葉を聞いたことがありますか。

はい	いいえ
14 人 (78%)	4 人 (22%)

【質問 5】(【質問 4】ではいと答えた人のみ) それぞれの違いを正しく理解していますか。

はい	いいえ	自信がない
2 人 (14%)	7 人 (50%)	5 人 (36%)

【質問 6】「丁寧語・美化語」という言葉を聞いたことがありますか。

はい	いいえ
2 人 (11%)	16 人 (89%)

この結果より、多くの生徒は敬語を正しく使うことに対して自信がないことがわかる。その理由の一つとして、「尊敬語・謙譲語・丁寧語」のそれぞれの違いを理解していないことが考えられる。

○教材について

敬語はこれまで学校教育の場では、尊敬語・謙譲語・丁寧語の三種類による分類法が一般的であったが、2007年の文化審議会答申による「敬語の指針」では「尊敬語」「謙譲語Ⅰ」「謙譲語Ⅱ（丁寧語）」「丁寧語」「美化語」の五種類が示された。しかし答申では、「学校教育における敬語指導の具体的な取扱いについては、従来の経緯を踏まえ、かつ、児童生徒の発達段階等に十分配慮した、別途の教育上の適切な措置にゆだねたい。」と付記している。こうした考え方を受け、本教材では基本的には「尊敬語・謙譲語・丁寧語」の三種類による分類を示す。

また、文法の学習の中でも敬語は日常生活に直結したものになる。義務教育の最終学年の段階において改めて敬語について総括的に学習することは、敬語の理解を深めることはもちろん、生活の中で正しく使えるようにするために大変重要であると考えられる。生徒に自分の使っている敬語を振り返らせ、正しいかどうか考えさせる機会を与えるきっかけとして大変価値のある教材だと思われる。

○指導について

初めに日常生活の一場面を例に挙げ、自己が使っている敬語を振り返らせる。その後で、「尊敬語・謙譲語・丁寧語」のそれぞれの種類や特徴を説明し、正しく理解することができるようにする。自己の敬語を見直した後に、敬語の知識を指導することで、生徒の興味・関心を引き出すとともに効果的な知識の定着を図りたい。

正しく敬語を使うことは、相手や周囲の人、その場の状況についての話し手の気持ちを表現するものとして重要な役割を果たしており、人間関係を形成する上で大切であることを生徒に気付かせたい。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 言語についての知識・理解・技能
・場面や状況に応じた適切な敬語表現について理解し、自分の言語生活に生かそうとしている。	・敬語の種類や特徴について理解し、場面や状況に応じて適切に使うことができる。 【イ(ア)】

5 指導と評価の計画（全1時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1 日常生活で使っている敬語を振り返る。	・電話でのやりとりの中から、自分の敬語に間違いがないか考えることができるようにする。	【ア】 ・日常で使っている敬語について積極的 に見直そうとしている。 (観察)
	2 敬語の種類や特徴について理解する。	・それぞれの敬語の使い方の違いに注意することができるようにする。	【イ】 ・丁寧語・尊敬語・謙譲語の特徴を理解しようとしている。 (ワークシート)
	3 敬語が使われている意義を考える。		【ア】 ・相手や状況に応じて敬語を使うことの大切さを理解しようとしている。 (観察)

6 本時の展開

目標 敬語の種類や特徴について理解し、場面や状況に応じ、適切に敬語を使うことができる。

展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
<p>(1) 電話でのやりとりを例に、日常生活で自分が使っている敬語を振り返る。</p> <p>(2) 本時の学習の目標を知る。</p>	<p>・日常生活で使っている敬語に間違いがないか考えさせる。</p> <p>具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さん→父（謙譲語） ・いない→おりません（謙譲語） 	<p>【ア】</p> <p>・日常生活で自分が使っている敬語が適切かどうか積極的に振り返ろうとしている。</p> <p style="text-align: right;">（観察）</p>
<p>場面や状況に応じ、適切に敬語を使えるようになろう。</p>		
<p>(3) 丁寧語の特徴についてノートにまとめ、動詞「食べる」・「話す」を丁寧語に改める。</p> <p>(4) 尊敬語の特徴についてノートにまとめ、動詞「食べる」・「話す」、名詞「手紙」・「会社」を尊敬語に改める。</p> <p>(5) 謙譲語の特徴についてノートにまとめ、動詞「食べる」・「話す」、名詞「手紙」・「会社」を謙譲語に改める。</p> <p>(6) 尊敬や謙譲を表す特別な動詞について、文法教室の表を参考にプリントに記入する。</p>	<p>・丁寧語とは相手に対して丁寧に話す言い方であることに着目させる。</p> <p>・「です・ます・ございます」が丁寧語の表現であることを説明する。</p> <p>・尊敬語とは相手の動作を高める言い方であることに着目させる。</p> <p>・尊敬語の4つの表現方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①尊敬を表す特別な動詞 ②お(ご)・・・になる ③尊敬の助動詞の付いた言葉 ④接頭語・接尾語の付いた言葉 <p>・謙譲語とは自分側をへりくだる言い方であることに着目させる。</p> <p>・謙譲語の3つの表現方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①謙譲を表す特別な動詞 ②お(ご)・・・する ③接頭語・接尾語の付いた言葉 <p>・尊敬語と謙譲語の表現を混同しないように促す。</p>	

<p>(7) ワークシートのA～Dの会話表現を適切な敬語を使って言い改める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、訂正の仕方について説明する。 ・机間指導をして生徒の理解度を把握し、状況に応じた助言をする。 	<p>【イ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧語・尊敬語・謙譲語の特徴を理解したうえで、会話表現を適切な敬語を使って言い改めている。 <p style="text-align: right;">(ワークシート)</p>
<p>(8) (7)で言い改めた会話表現を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な解答が出た場合は、どの表現が最も適切かを考えさせる。 ・尊敬語と謙譲語を混同しないように、動作主を明確にする。 	
<p>(9)学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語を使うことによって、人間関係が円滑になることに気付かせる。 	<p>【ア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や状況に応じて敬語を使うことの大切さを理解している。 <p style="text-align: right;">(観察)</p>

